



2025年4月10日 イングランド、ニューカッスル | 2025年4月

イングランドの中でも権威ある大学の一つであるニューカッスル大学は、最先端の研究、イノベーション、優れた学生体験への取り組みで知られています。この使命の中核を成すのが、工学・科学分野を支援するため設計された最先端の施設、**スティーブンソン・ビルディング**です。

広々とした多層アトリウムを備えたこの建物は、プレゼンテーション、協働学習、イベントのための開放的でダイナミックな空間を提供します。しかし、この傑作的な建築には、ある音響上の課題が伴っていました。広大で反響が多い環境の中で100%の明瞭度を実現しなければならない、ということです。

この課題に対処するため、ニューカッスル大学は英国に拠点を置くプロフェッショナルAVディストリビューターである**CUKグループ**と提携し、Renkus-Heinz製の特注音響ソリューションを導入しました。

結果、この空間においてあらゆる体験を向上させる、クリアでインパクトのあるサウンドが実現し、劇的な音響環境の変化がもたらされました。

「アトリウムは広大で反射音の多い開放的な学習空間で、複数のイベントに利用されており、エリア全体で明瞭度の高い音響が求められます。」

と、CUKのシステムソリューションディレクター、マーク・ブロムフィールド (Mark Bromfield) 氏は説明します。

「この空間には、音響的に難しい会場に最適なソリューションを幅広く取り揃えているRenkus-Heinzをすぐに思いつきました。Renkus-Heinzのスピーカーは高度なビームステアリング技術を備えており、スティーブンソンビルにぴったりでした。」

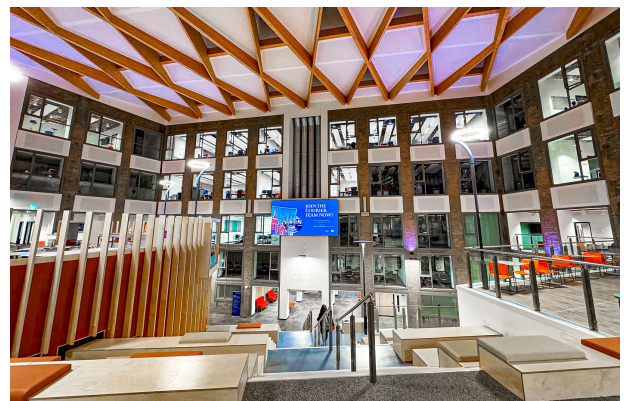
AVマネージャーのコリン・フェイハイ (Colin Fahay) 氏が率いるニューカッスル大学音響チームは、アトリウム内でカバレッジが必要となる4ゾーンを特定しました。

プレゼンテーションエリアに近い3個所が優先ゾーンに指定され、4つ目のゾーンは設置するのが望ましいものの、必須ではないと考えられました。

「設置されたオーディオソリューションは私たちの期待を大きく上回るものでした。」

とフェイハイ氏は言います。

「4ゾーンすべてにクリアなカバレッジと明瞭度を提供し、当初指定されたエリアだけでなく、あらゆるプレゼンテーションポジションからオーディオシステムを利用できるようになりました。」



このレベルのパフォーマンスを実現するため、チームはまず空間の詳細な音響分析を行い、Renkus-Heinz社と共同でEASEレポートを作成しました。その分析結果に基づき、主要機器の選定と配置が決定されました。

IC Live Gen5シリーズICL-F-RDスピーカー2本をビデオウォールの左右に設置し、階段状の座席エリア、2階バルコニー下のソーシャルラーニングスペース、そして最上階のソーシャルラーニングエリアをカバー。

メインのソーシャルラーニングスペースには、Iconyx CompactシリーズのICC24/3-RD可動式スピーカー2本を設置し、3フロア全体を網羅できるようカバーしました。

「Renkus-Heinz社のビームステアリング技術により、必要な場所へ音を正確に誘導し、反射を最小限に抑え、明瞭度を確保することができました。」とプロムフィールド氏は説明します。

新音響システムは運用開始以来、常に優れたパフォーマンスを発揮しています。

「このシステムは期待を上回るものでした。」とフェイハイ氏は述べています。「その明瞭度とカバレッジは、講義やプレゼンテーションから交流会まで、アトリウムのあらゆる階で幅広い用途に対応できます。Renkus-Heinz製スピーカーの高度な機能を活用することで、ニューカッスル大学は教育空間における音響の新たな基準を確立しました。このソリューションは我々のような学内音響チームの能力を大幅に向上させ、学生と教職員へのより良いサービス提供を可能としています。」

ニューカッスル大学のスティーブンソン・ビルディングは、あらゆるイベントや活動に対応できる音響システムを備え、あらゆる言葉が聞き取れ、あらゆる瞬間が印象深きものになります。

適切なテクノロジーが大きな変化を生み出します。

Iconyxシリーズのような高度なビームステアリングスピーカーは、複雑な環境でも優れた明瞭度とカバレッジが実現できるよう設計されています。

Technical information

2 x Renkus-Heinz ICL-F-RD
2 x Renkus-Heinz ICC24/3-RD

